

- グローバル人材育成推進校
Project for Promotion of Global Human Resource Development
これからの未来社会をたくましく生き抜く人材の育成
- 文部科学省「授業時数特例校」
シブヤ未来科（総合的な学習の時間）の拡充
地域や関連団体・企業等と連携した探究学習と個別の探究
- 渋谷ユナイテッド連携 部活動の地域移行を推進するためのモデル校
2024 年度は、運動部活動を中心に渋谷ユナイテッドとの連携により
スポーツ・文化活動の地域密着型コミュニティの創出を目指す。

1 教育目標

「超スマート社会」とも言われる「Society 5.0」の到来に伴い創出される新たなサービスやビジネスによって、我々の生活は劇的に便利で快適なものになっていくといわれています。一方で、人類がこれまで経験したことのない大きな変革期を迎えるともいわれる中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の高度化した先端技術を使いこなし、多様な他者の価値観や特性の差異、世界的な環境の変化等と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく人材が求められています。このようなグローバル人材（次世代人材）の育成を目指し、激動の時代をたくましく歩いていくための「生きる力」を育むため、次の目標を設定します。

- Communication
多様な他者との主体的な「コミュニケーション」により
自分のよさや可能性を探究するとともに
あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる
- Collaboration 多様な他者との協調・協働「コラボレーション」により
最適解・納得解を導き出し
様々な社会的変化を乗り越えることができる
- Innovation 多様な他者の考えを統合することにより
新しい価値（コト・モノ）を創出する「イノベーション」を
豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる

2 コア・コンセプト

Connect to the Future – Challenge & Evolution –

未来へつなぐ 挑戦と進化

めざすのは「ちがいを ちからに 変える学校」
あなたと誰かの「違い」はすべて
この学校のちからになっていきます
あなたが存在しなければ
つくれない未来がある
原宿外苑中学校のすべてのちがいをちからに変えて
未来社会を見据えた「未来の学び」を創造し「未来の学校」を構築する
これからの未来社会をたくましく生き抜くグローバル人材をめざして
限らない挑戦とたゆまぬ進化によって
すべてを「未来へつなぐ」

3 マルチ・コンセプト

Don' t think, just do! HarajukuGaien やっちゃんえ 原宿外苑

「世界水準の学び（グローバルな学び）」の構築に向けた「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。これらの課題を乗り越えるためには、「実行力」が重要です。子供たちのために「良いこと」はとことんやる。そして、やり切る「突破力」も必要です。この「実行力・突破力」を引き出すために Don' t think, just do! HarajukuGaien 「やっちゃんえ 原宿外苑」を合言葉に新しい教育活動を展開していきます。

4 具体的な方策

（１）子供たちの未来を最大化する－Communication－

将来、自身のコミュニケーション能力で「学び」を広げることのできる力（学び続ける力）を育成すること。そして、自分のスキル（資質・能力）で、自分の未来を最大化することができるようにすることが、これからの学校教育に与えられたミッションと捉えています。このために、キャリア教育の視点から授業を再構築し、各教科のねらいを達成することはもちろん、実社会につながるスキル（資質・能力）の育成の視点から授業の本質を問い直していきます。「社会の課題解決という視点が新たな価値を創造する鍵になる。」多くの企業がこのような視点で経営戦略を展開しています。「学びのイノベーション」もこの視点が重要であると捉え、「学びと社会をつなぐ」ことが必要であると考えています。子供たちにとって「良い課題」を設定し、主体的に試行錯誤し、多様な他者とのコミュニケーションにより新たな課題を解決するような「学習者主体の学び」の創造を進めていきます。

（２）協調型問題解決能力（Collaborative problem solving）の育成－Collaboration－

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、未来社会を見据えた「未来の学び」を創造していきます。このために学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」「言語能力」「問題発見・解決能力」の育成を図ります。この資質・能力の育成のために３つの視点から「未来の学び」の創造にアプローチします。学校図書館・ＩＣＴの活用（情報活用能力）、対話・議論する学び（言語能力）そして、外部人材の活用（問題発見・解決能力）を展開します。

① 学校図書館・ＩＣＴの活用（情報活用能力）

スマートフォンやタブレットＰＣなど情報機器の使いやすさが向上して、情報を活用したり発信したりする機会が増大しています。また、ＩｏＴやＡＩなどによってデータを分析した最適解が導き出される時代となってきています。このような時代は、あらゆる活動において情報を適切に選択・評価して活用することが不可欠な社会となります。そうした社会において、情報を的確に捉え、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と協調し、新たな価値の創造に挑んでいけるような「情報活用能力（情報モラルを含む）」の育成に向けた学びを学校図書館とＩＣＴとの活用により目指します。学校図書館の「読書センター」としての機能に加え、「学習センター」、「情報センター」として活用することで「学び」の場を構築します。学校図書館では書籍で調べたものをインターネットで広げ、インターネットで調べたものを書籍で確認するといった「情報を収集して評価する」といった「学び」を創造していきます。ＩＣＴの活用については、インターネットでの検索だけではなく、教科書やノートといったツールとしての活用を徹底します。さらに、「最新のテクノロジーを導入して活用することで社会の課題を解決すること」をコンセプトにさらなる活用を進めています。単に教育用にカスタマイズされた仕組みで授業するのではなく、授業をデザインする中で必要な部分（効果的な部分）に実社会にあるテクノロジーを活用するといったスタイルで「学びの創造」を進めていきます。

② 対話・議論する学び（言語能力）

子供たち同士、教職員や地域住民・外部人材、先哲の考え方を手掛かりに、個々が考えたこと等の「対話」や「議論」を通じて協調し、自己の考えを広げ深めることを全ての学びの中心とします。言語活動により他者との多様な考えを融合することで、「協調型問題解決能力」の育成を目指します。

③ 外部人材の活用（問題発見・解決能力）

主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働する重要性などを実感し、問題（課題）を発見・解決することを理解することができるよう、実社会の「ホンモノ」に触れ学ぶことは重要です。（オーセンティック・ラーニング Authentic Learning）地域・家庭・社会と連携・協働して、外部人材を積極的に導入し「ホンモノ」に触れる「学び」の機会を多く取り入れていきます。外部の人材を導入することで、「学校の常識」という既成概念を「社会の常識」に近付けていきます。

(3) 家庭・地域・社会との連携・協働 -Innovation-

「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、家庭や地域への情報発信に努めるとともに、家庭・地域・社会の力を学校の教育活動と協調することで、学びのイノベーションを誘発します。

5 取組の重点

- すべての教育活動において「対話」を重視します。
「対話」を通じて多様な他者と関わりあうことで「ともに見る、ともに感じる、ともに考える」という共感を伴った「理解」が生み、その先の「信頼」へとつなげていきます。
- 教員の授業力・経営参画力を高めていきます。教職員の「協調型問題解決能力」を高めることで質の高い授業力・経営参画力の育成を図ります。
 - ◆ 「学校の常識」を「社会の常識」にしていきます
 - ◆ 保護者・地域との協働体制を構築します
保護者、地域とともに「とことん」生徒に関わる教職員
 - ◆ 生徒を「信じ 待ち 許す」ことのできる体制をつくります
 - ◆ 生徒の夢を育む「だったらこうしてみたら」型の指導を進めます
 - ◆ 日本一「面倒見の良い」学校を目指します
 - ◆ 「生活指導」から「生徒支援」への転換
- 心の教育の充実を図ります
すべての教育活動を通した道德教育の充実を図るとともに、道德科においては「考える道德」「議論する道德」の実践を進めていきます。
- 個々の学力・体力にあった指導の充実を図ります
ICT（先端技術・テクノロジー）の効果的活用により、すべての生徒の「ワクワク感」を高め、学習習慣、運動習慣の定着を図ります。「学び方・運動の仕方」を身に付けることで「基礎学力、基礎体力」を確実に定着する力を育成します。また、自分の特性を理解した「自分なりの」学び方・運動の仕方を身に付けることで「自信と誇り」を育成していきます。（学習の個性化）さらに、学習につまずきのある子どもに対する具体的な支援策を探っていきます。（指導の個別化）
- 特別活動の充実を図ります。（生徒が主体の学校への転換）
学校行事や部活動等のねらいの明確化、創意工夫ある取組により、生徒が主体的に取り組む集団的な活動の充実を図ることによって、すべての生徒の「自己有用感」を育成していきます。特に、異学年集団の活動を通して自分の立場や役割を知り、思いやりの心をもって、人と関わる等の「ピアサポート(お世話活動)」を通して、リーダーの育成と協力する心の醸成を図り「自己有用感」を育成します。
- 特別支援教育・学校不適応指導の充実を図ります。
さまざまな理由で学校に適応しにくい生徒を徹底的に支援します。すべての生徒が将来に向けて夢や希望を抱き、安心して生活できるようにしていきます。
 - ◆ 学校不適応への粘り強い対応
 - ◆ 特別支援教室の活用
- 教育環境の整備を図ります
「学び」の仕掛け(キッカケ)のある学習環境を構築していきます。